

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会
平成 28 年度第 3 回地域福祉活動計画策定委員会会議録

1 日時

平成 28 年 10 月 17 日（月）13:30～15:45

2 場所

あいとびあセンター 地域福祉推進室

3 出席者（敬称略、名簿順）

委員：小野 敏明、中村 美安子、市川 衛、森井 道子、大矢 美枝子
長谷川 まゆみ、小野 芳明、大久保 幸藏、松村 正俊
三角 悦一、松村 雪子、岡本 起恵子、小川 正美
小林 万佐也、竹中 石根（15 人）

事務局：小楠 寿和、高橋 宗孝、大山 寛人、大塚 隆人

コンサルタント業者（生活構造研究所）：

塚田、柏木、近藤

4 議題

- 1 社協行動計画の取り組み評価について
- 2 その他

ー配布資料ー

- ・平成 28 年度第 3 回地域福祉活動計画策定委員会次第
- ・平成 28 年度第 2 回地域福祉活動計画策定委員会会議録
- ・資料 1 社協行動計画における取組みの評価の進め方について
- ・資料 2 平成 26～28 年度実施事業一覧表
- ・資料 3 社協行動計画評価まとめ
- ・資料 4 行動計画の取り組みに関する現状と課題整理まとめ等
- ・参考資料 現行計画の取り組み状況に関する職員ヒアリング調査概要
- ・参考資料 現行計画の取り組み状況に関する職員ヒアリング調査結果まとめ

5 会議の結果

1 社協行動計画の取り組み評価について

(事務局)

＜配布資料の確認＞

＜生活構造研究所の紹介＞

(生活構造研究所 塚田)

市の地域福祉計画作成の手伝いをしています。その関連で社協では行動計画を改訂するとのことで関わらせていただいています。実際には社協とは9月半ばから開始しました。まだまとめのすり合わせが出来ていません。ご容赦ください。

(事務局)

事務局と生活構造研究所で分けて説明します。資料3では主に未達成の事業を説明します。

＜事務局より、資料1、資料2、資料3について説明＞

(生活構造研究所)

参考資料の職員ヒアリング調査概要と評価結果を説明します。目的は、行動計画の取り組み及び進捗状況の評価結果を確認し、阻害要因を整理分析し、結果を委員会に報告します。調査対象は係ごとに約一週間で話を伺いました。資料「調査結果まとめ」でまとめています。次期行動計画に向けた検討事項は、社協とのすり合わせはまだできていません。資料4は主な財源、担当係、事業名、対象、事業の中身をわかりやすい言葉で整理しています。自己評価は、職員の方の評価です。施策別課題については、今回まだ整理できていないのでご容赦ください。ダイジェストしてまとめたのがA4の資料です(資料4)。計画のフレームは、基本目標が3つ、大きな柱立てが4つで計画がつくられています。施策目標別で整理してみると、全体で28の施策と63件の具体的な取り組みがあります。担当係別に見た具体的な取り組みでは、そこ力ネットワークが15件で多く、続いて組織管理係13件、市民活動支援係11件。取り組み区分、事業分類別は、63件の取り組みの中で、組織運営関連が21件で多く、この振り分けには意見があるかもしれませんが、われわれのまとめになります。取り組みの対象ですが、社協職員向けが18件で多く、次に一般市民向けが12件。自己評価の状況ですが、今回の取り組みについて、社協で設定している評価軸に沿って評価を行っています。以上がまとめの説明です。

その中からみえてきたものが2の行動計画の課題整理になります。内容面で調整が必要ですが説明します。様々な話を伺い、資料を拝見し、今後個別の施策でまとめていきますが、ひとつめには計画全体に関する課題で三点あります。一点目は、今回の計画は係単位で作成されています。作り方の問題ですが、事業の内容が見えにくくなっています。二点目は、具体的な数値目標が設定されていません。どこまで達成できたのか分かりにくい。例えば、市全体でボランティアがどのくらい必要なのか、今後どれくらい要請していく必要があるのか、根拠となる数をイメージし、将来の事業予測を踏まえていく必要があり、

3年間でどのようにクリアしていくのかを設定していくという観点で書いています。三
点目は、日常生活圏域が市は介護保険計画として三圏域で、社協は四圏域で計画がつくら
れています。今後市の計画と連動していくとき、圏域数が異なると計画をたてにくいので、
合せるのか合せないのか点についても今後検討が必要です。

ふたつめは、取組みに共通した課題ということで書きました。課題に対して実施した場
合にどのような地域福祉が実現できるのか、社協全体、地域住民でそのイメージ像が共有
できているのか、様々な事業を展開していくなかで、どう地域が変わっていくのか、少な
くとも職員が共有し、そこを目指して取り組んでいくことが必要なのではないかと。それは
社協本体の経営理念、ビジョンに通じてくるものかと思います。個別施策の目的や対象に
ついて、一部共有されていないようなことが見受けられました。今後計画を立てていくに
は、定期的に確認する機会を作ったり、前任者からの引き継ぎを丁寧に行い、なぜ行って
いくのか、再確認して行う必要があります。複数の係で担当している事業がありますが、
責任の所在があいまいです。今後計画を作成していくうえではっきりさせていくことが
必要だと思います。そこ力ネットワークですが、縦割りの組織弊害を横割りで対応してい
く良い取組みかとおもいますが、兼任体制にしていますがスタッフが足りていない。そう
いった点で、成果としてみると、手が足りないことであまり出ていない部分が見受けられ
ました。再度検討していく必要があると思います。自己評価に関する課題ですが、取組み
を実施したか否か、という評価になっています。取り組みの結果、どのように課題解決が
達成されて、どのように地域が良くなったのかであり、実施したのかどうかでは分かりま
せん。課題整理という部分まではまとめているますが、課題整理からどう改善していくのか
あまり評価の中では取組まれていません。整理まででとどまらずに、踏み込んでいただけ
れば。PDCAサイクルで具体的に回していくことが今後の計画作りで必要だと思います。
以上が感じたことのまとめです。次回の委員会までに個別施策の課題整理を行います。
(委員長)

資料3について意見や質問はありますか。

(委員)

今日検討することについて、行動計画が地域福祉活動計画に転換するわけではないと
思うので、今回の議論の位置付けを確認したいと思います。それぞれの関係の説明を願
いします。

(事務局)

今回は行動計画の評価です。内容によっては、活動計画に落とし込まれてきます。基本
的には、行動計画の評価で、来年度は一年間計画が無い時期なので、行動計画の見直しと、
29年度の計画の参考にさせていただければ。

(委員)

活動計画との関係はどうでしょうか。活動計画の議論は少しお休みして、行動計画の確
認と、この委員会の意見をほしいということでしょうか。

(事務局)

委員会の所掌事項に評価に関することを入れています。

(委員)

関係性がよく分かりません。社協の計画を作るのでしょうか。

(事務局)

基本は、活動計画についてです。

(委員)

ここで議論することは、ニーズをはっきりさせて、社協はここをやる、住民はここをやる、やる人がいない部分は整理していく、ということだと思います。社協にもいろいろな課題があるということですが、行動計画の話をすれば、そこで話が終わってしまうのかなと思います。

(事務局)

今回と次回は行動計画の評価について協議していただくことを考えています。

(委員)

今回と次回は行動計画の部分の評価をしたうえで、活動計画に活かしていく、ということで切り替えて議論していくということでしょうか。

(委員長)

行動計画の部分の評価をしたうえで、活動計画に活かしていく、という手順についていかがですか。

(委員)

行動計画は、全体像としてニーズに対して社協がどう対応していくのか、という大きな目標が無くて、それぞれの通常業務をどうしたらいいのかという各論から入っているので、全体像として、地域の問題をどうしていくのか、ということをやらないと。行動計画で共有できていないという指摘がありましたが、もっともだな、と思いました。すでに各論化している事業の出来た出来ないを議論していていいのかな、と思いました。行動計画と活動計画は違うという事は確認していいですね。

(事務局)

現時点での行動計画は、計画策定の位置付けが、委託事業はそのままにして、そのうえで、それぞれの係や職員が共同でできるものをつくろうという視点があります。組み立て自体も、全てが社協の発展計画だけではない部分も含まれています。

(委員)

行動計画は今年度で終わるのですか。

(事務局)

今年度で終わります。活動計画の中の発展強化計画ということで別個に発展強化計画として入れていくかどうかは、未定です。

(委員)

ニーズを一回出しましようという話はそのままなのに、今回の行動計画に意見を下さいといわれるとどうしていいかわかりません。

(委員)

いままでやってきた係単位の話をしているだけであって、社協がどうかというこのつくり自体、地域をささえる人材育成は、事業とは関係のない目標だと思います。どこまでできたら達成したということなのか、ということは今まで一切ありません。地域を支える人材育成をやります、とありますが、どういう状況になったら「やりました」で「人材を育成した」ことになるのか、ということになります。そのつながりが委員に分かるような計画書になっていません。いつも係単位で「やった」「やらない」です。係が出来なかったら、その上席の責任はどうなのでしょう。これは自己評価です。計画の立て方、自分たちが何をやりたいのか、それをまとめていただいた上で、係の取組みがあると議論しやすいです。構造的なことは、私たちに言われてもわかりません。例えば、人手が足りなかった、自分たちのスキルが無かった、などがあればコメントできますが、私は、このフォームを見ると、何を言っているのかわかりません。

(委員)

行動計画の委員会のときも同じでした。何を言っているのかわかりません。その時に委員が言っていたことは、今日コンサルが言った事と同じです。どこを目標にしているのか、何をもって達成とするのか全く無い自己評価になっています。

(委員長)

現行の行動計画に成果指標が入っていない、ということです。

(委員)

新しいことが出来なかった対応に対して、組織としてどうしたらやれるようになるのか、などであれば、委員も意見を言えると思います。

(委員)

行動計画の評価なのか、活動計画の為の評価なのか、きちんとしなければなりません。行動計画はどこで終わるのか、そうした前提を明確に話していただきたい。評価は出ていますが、まとめがされていません。この委員会では、活動計画を作ってくださいと言われてます。委員会が受け持つ活動計画を、もっと委員が分かるように、全体的な形が見えるように見せてもらいたい。

(事務局)

整理させていただきます。行動計画は社協の内部計画で平成 28 年度までの計画で、数値的な指標がなく、係もまたがっているので、分かりづらくなっています。今回皆様には、地域福祉活動計画について審議していただきますが、その前に、現行の行動計画を整理して落ち着かせないと活動計画にも影響が出てしまうので、今回と次回で行動計画で未達の部分を整理したいのです。行動計画は 28 年度までなので、29 年度は延長版をつくるのか、あるいは別途計画を作るのかを第 3 回目と 4 回目で審議いただきたいというのが、事

事務局の趣旨です。3回目と4回目は、切り替えていただき、行動計画について、未達の部分をどうしていくか、ご意見をいただければと思います。数値的な目標が無いとか、いろいろと課題が残されていますので、次年度以降、活動計画にも活かしていきたいのですが、まずは行動計画を片付けていきたいというのが、事務局の考えです。

(委員長)

行動計画の未達成の状況というよりも、行動計画のなかで、活動計画に活かしていくことについて意見をいただき、評価に変えていくという事でいかがでしょうか。

(委員)

頂いた資料3で評価しようということですが、具体的な評価というのは、出てきた書類を承認するということなのか、わかりません。未達の部分に対してどういう評価の言い方をすればいいのかわかりません。

(副委員長)

この会議は、狛江市をどう考えていくか、という会議です。この資料をみた上で、社協が取組んでどうだったかということですが、管理、目標、納期がありません。われわれが言えるのは、そういうものが無いのであれば、次回はやってもらいましょう、ということになります。そうした土台となる資料としてとらえてはどうでしょうか。この資料に関すること自体は社協が別個の会議を開けばよくて、ひとつの資料として見ていただければよいのではないのでしょうか。

(委員長)

他にはどうでしょうか。

(委員)

この委員会では、行動計画のことは聞かなくてもいいのではないのでしょうか。

(副委員長)

日常生活圏域は、社協は四圏域で市は三圏域ですが、そのことは重要です。それを説明してもらわないと分かりません。

(事務局)

小地域福祉活動では四地域です。社協は、住民組織の支援として取組んできました。小地域福祉活動は町会自治会であり、日常圏域エリアではないのでズレが出ています。具体的には猪方駒井地域と岩戸地域で分かれています。あとは、和泉本町です。その二か所が圏域として外れています。

(委員)

市民活動支援センターの運営と社協の部分は一つのページに載っています。災害ボランティアセンター事業は、前はボランティアセンターが拠点となっていました。今回、委託事業で支援センターになり、社協にいた人たちが、全部向こうに行きました。社協の仕事ではなく、支援センターの仕事になっていると見ています。その部分は引き継ぐときには、見ていただけたらいい。市民活動支援センターは委託費の中でやっています。この

範囲でやるためにお金が出ていると思います。その中に災害ボランティアセンターの運営には入っているのでしょうか。委託があるうちは社協がやって、委託がなくなったら支援センターでやる、という区分で本当にいいのかどうか。あくまでも市民活動支援センターは委託業務です。市民活動支援センターの委託を受けたということで、社協とは全然違う話を受けた、と思っていますが、社協の仕事も持っていったことになっています。同じ業務でも、委託のときとそうでなくなった時のことをはっきりさせておいたほうがいいのかと思います。

(事務局)

災害ボランティアセンターは、行動計画上の具体的な取組みのときには、市民活動支援センター前のボランティアセンターの取組みで、平成 28 年度に市民活動支援センターに変わっているので、クロスオーバーしている部分があります。現在、災害ボランティアセンターは市民活動支援センターの主担ではなく、社協全体でプロジェクトチームとして検討しています。いままでのノウハウはあるので市民活動支援センターの職員は携わっていますが、災害ボランティアセンターは社協で行っています。災害以外の部分でも、ボランティアセンターが市民活動支援センターに変わったことで宙ぶらりんになった事業がいくつかあります。資料は、行動計画のときの担当になっているので、分かりづらいかもしれません。

(委員長)

行動計画の評価は、この委員会でする役割では無いのではないのでしょうか。行動計画を見ながら、部分によっては活動計画に活かしていくという視点で意見交換をするという進め方でいかがでしょうか。

(委員)

委員長のおっしゃる進め方でいいと思います。

(委員)

いいと思います。われわれは何をするのかという事について、前に配られた資料には評価も書かれているので、資料を材料にしていくということについては賛成です。

(委員長)

活動計画にとっては重要なので、意見をいただくということでどうでしょう。そのような視点でご意見をいただきたい。

(委員)

全体的に、職員の数に関して、社協のキャパシティ、仕事の量についての整理ができていない課題があります。新しくつくるもの、足りなければ切るもの、などがあると思いますが、足りなくても活動計画を続けていくのかどうか、難しいと感じています。

(委員長)

他にはどうでしょうか。

(委員)

やり方は理解できました。あまりにも広すぎて、意見が出しにくいと思います。地域福祉活動計画を立てる上で、外してはならない柱があれば、具体的に意見が出しやすいと思います。前回の資料に出ていた「社協のコンセプト」のP8「基本的な三つの視点」で考えていいのでしょうか。行動計画の基本目標の4つと重なっているので、そういう視点でやっていってはどうでしょうか。

(委員)

人数のことがありましたが、現実には評価よりももっと大変だと思います。出して下さった資料ですが、普段の事業に関わって思っていることですが、あれもこれもはできません。人がいませんし、ボランティアも減っています。協力委員も大変です。現場はそういう感じですので、意見が出せません。

(副委員長)

大きな柱があって、行動計画の基本目標1「地域をささえる人材育成」を地域福祉活動計画に掲げて構わないのか、入れるべきなのか、この目標で本当にいいのか、ととらえられるのではないのでしょうか。

(委員長)

基本目標に沿って試みていくということでしょうか。

(委員)

次のステップで何をやらなければならないのかをはっきりさせるべきではないでしょうか。それを実施する体制を考えなければなりません。これをもとにして先を考える、というやり方が正しいのか分かりませんが、話は出しやすいと思います。

(委員長)

基本目標1「地域をささえる人材育成」では、市民の福祉理解を進めることと、地域の担い手をどう作っていくか、その点に絞れば意見を出せるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

(事務局)

先ほど委員から話がありましたが、前回、地域福祉活動計画の基本的な視点として、たたき台ですが社協のコンセプトを3つ出しています。これに照らし合わせると、どこを残して、どこを削るのか。

(委員)

具体的な数字が入らないと、周りから見て「何もやっていない」と言われてしまいます。

(委員長)

社協のコンセプトの3つの柱に沿って、強化すべき点などを出し合うということでしょうか。

(委員)

「みんなで支え合うまちづくり」はどういった要素が必要か、ということを出し合ったうえで、配布資料を見たほうが良いのではないのでしょうか。

(委員)

毎回、議題のテーマがあがっていますが、テーマにいきついていません。何を意見交換するのか、わかりません。例えば「評価についての報告」であれば分かります。策定委員会として何を話すのか、記入していただきたい。2回目の委員会では、皆さん意見を言っていますが、計画の策定まで至っていません。これどういう会なのか、内容をはっきりしていただきたい。わたしたちが集まっているのは、地域福祉活動計画策定委員会なので、この資料を参考にして、何について意見を言ってほしいかを伝えていただければ、かなり意見は出ると思います。あっという間に時間が過ぎて、次回になってしまいます。

(事務局)

評価に関することについては、この委員会の意見をいただきました。未達成の事業については、原因を生活構造研究所にまとめていただいているので、その資料をもとに、理由を事務局で検討させていただき、来年度に向けての改善策を挙げて、来年度計画に反映していきたいと思います。達成されている事業に関しても、日常的な業務の中に落とし込める事業がかなりあるので、評価に関しては、日常業務に落とし込む部分と未達成の部分について原因をはっきりさせて、事務局側で来年度に向けての対策を立てて事業計画の中に位置づけていくという流れで承認をいただければと思います。

(委員)

毎回会議をやっても、進まないと感じています。せっかく会議を行うのであれば、皆さんの意見が活きていくものでないと。もっと実践で活きる話をしてほしいという事がこの会議でも出ていました。この会議で何を言っているのかわからないという意見がありましたが、この会に何を求めているのか、おっしゃっていただかないと分かりません。個人的な意見は構いませんが、皆が好きな話をしていくので、なかなか進んでいきません。

(生活構造研究所)

今回、コンサルタントで入っているのは、来年度の活動計画を作成するために関わっています。現在社協は、何を基に動いているのかですが、この行動計画だけです。この行動計画の現状を見て、活動計画に持ってくるものは何か、持っていないものは何か、ということについて評価という仕組みを使い、皆さんに考えていただく場であると認識しています。行動計画の評価としていますが、来年度の活動計画を策定するために行っている議論であると認識しています。行動計画の中身と、活動計画に持ってくる中身はかなり重複します。目標や視点は考えていかなければならない重要なことではありますが、今現在行動計画で取り組んでいる社協の中身をみて、活動計画を考えていくことが大事になってきます。財源ですが、委託金や補助金など、市からお金をいただきながらやっている事業が多くあります。それを止める止めないということは、現実的にはあまりおっしゃっても意味がないと考えたほうがよいと思います。自主財源で動かしている事業と社協の考えで動かしている事業、という感覚でみる方法はあると思います。活動計画を作っていくうえで、評価指標がないといけないという意見を出していただきましたが、入れ込んでいく形

を取っていきたいと思います。係別の計画になっていますが、市民活動支援センターは、28年度から委託されていることもあって、社協の中でも事業の住み分けできていないと認識しています。委託事業であるのかどうか、社協でやるべきことの仕分けを考えたほうがいいと思います。来年度の計画を作るという事を踏まえて意見を出していただけたらと思います。

(委員)

行動計画と活動計画は違うという整理です。行動計画は社協がきちんと仕事をしていくための計画で、理事会がしっかりと見て行けば良いと思います。活動計画は、社協と住民と一緒に大きな絵を描く、そのための委員会だと思います。大きな絵を描くと、行動計画が変わってくる、社協が変わってくる、ということです。活動計画では、大きな目標・理念を皆で出し合う、課題を克服するまちづくりの話をしていくということだと思います。今狛江で何が困っているのか、皆が感じていることを数字や具体的な声、過去の調査結果などで出してほしい、という話は2回ほど出ています。それをもとに、皆がどうするか、という会にしたいです。指標の話は、もう少しあとでいいと思います。

(委員)

社協がつくった評価を出すから悪いのであって、評価になっていません。何のために生活構造研究所が資料を作ってくれたのか。課題は書いてあります。そのうえで意見をもらおうとするからうまく進むわけがありません。実施・未達成・達成で自己評価していますが、いまだきこのような評価はありません。A B C Dで自己評価しているのに、なぜあらためて資料3が必要なのか。社協が何も考えていないということを証明しているような評価です。

(事務局)

資料3は、個別の事業について職員からヒアリングするための資料をまとめなおしたものです。今回、生活構造研究所側でも時間が無い中でやりましたので、資料を分担して作成することで話を進めさせていただきました。

(委員)

狛江市の地域活動が高齢化していることは、皆さんが出してくれていることです。ここまで課題を挙げてくれているのに、あえてまたこの場で意見を出してもらうのはあまりにセンスがありません。これについてどうでしょうか、ではなく、これについて意見をください、では意見は言えません。生活構造研究所が作成した資料を活かしましょう。

(事務局)

生活構造研究所とのやり取りで内容をつめることが出来ていないので、今日はあくまで参考資料とさせていただきます。

(委員)

達成と未達成の評価のなかで、達成となっても、職員の皆さんがこれをどうしていきたいのか、継続しなければならないのか、そういうことが書かれてあると資料も生きる

のかもしれませんが、達成となっているが、出来なかった部分がある事業が多くあるので、そのあたりのところがもったいないと思います。

(事務局)

次回に改善策を出す予定でした。改善策は担当職員に聞かないと作成できません。

(委員)

社協の3つのコンセプトは、今回の職員ヒアリング調査結果まとめの各項目のどれにそれぞれ該当するのか、次回までにまとめてください。

(委員)

この場で何を決めたらいいのか、先に言っていただけたらと思います。

(委員)

今回、次第に「取組み評価について」と書いてあります。事務局で意見をほしい点をはっきり言っていただきたいと思います。はっきりしたものがないと意見の出しようがありません。個人的な意見ではなく、この会議で皆が意見を言えるものを出していただきたい。何を決めるのかは決まっているので、それにつながっていくように意見を求めていかないと、何度やっても同じだと思います。

(委員)

事務局が出してくる資料、話を聞いていると他人事です。係がやっていることです、ではなく、社協がやった結果がどうだったのか、自分たちでどう思ったのかであって、思えなければ計画はつくれません。それを委員に意見を出してもらうという事であれば、委員は実務をやっていないので、意見は言えません。社協としてどうしたいのかを言っていたかないと、話は終わってしまいます。

(事務局)

ニーズの話が出ていましたが、ニーズをもとに地域福祉活動計画の策定をつめるのが3月の第4回目で想定していました。これから住民懇談会をやっていきますので、そこでの結果をまとめて協議して頂こうと想定していました。それと、次回は行動計画の評価を踏まえどのようにするか、ということです。ニーズのことは住民懇談会も含めた形で上がっている声を出して協議する形でいかがでしょうか。

(委員長)

統計資料で分かるものは出して話をしているってはどうでしょうか。

(副委員長)

社協としてのコンセプトですが、社協の計画の中でどれがそうなのか、実際社協でどういうことをやってきたのかということと、住民懇談会で意見が出てきます。住民の考えとリンクさせて考える必要があります。ある程度のたたき台があって、それをもとに大きな柱を検討することだと思います。

(委員)

生活構造研究所が書いている検討事項ですが、きちんと分析され委員会で協議してい

ることが書かれている部分もあります。せっかく書かれているものなので、一度しっかりと検討していいと思います。時間が無い中で、進めようとするのに無理があります。3月の委員会である程度の構想を出していただけるといいと思います。

(委員長)

活動計画の素案のようなものでしょうか。

(委員)

そのようなものがあれば、こういう意見を入れてほしいと、意見が出しやすくなります。

(委員)

資料には事務局で出した検討事項が書いてあります。自分たちでこのように変えていきたいということを出していただければ、委員から意見が出ると思います。

(事務局)

生活構造研究所作成の職員ヒアリングの資料に対策を入れることと、第2回で提示した骨子の部分と現行計画をどう連携させるかの資料を作ることはできます。ご意見をいただく部分を絞ることが出来ると思います。

(委員長)

社協のコンセプトに基づいて整理することと、この分野の課題に対する考えを出してもらえれば意見を出しやすいと思います。

(委員)

意見を出してほしい部分は通知文の中に書いてもらいたいと思います。漠然としてしまいます。また、資料は早目に送っていただければと思います。

<次回日程：平成 29 年 3 月 6 日（月）14 時 00 分～>